

## 【緑区】令和7年第1回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和7年2月3日 午後2時30分～3時45分
場 所	緑区役所4階 会議室4AB
出席者	<p>【座長】鴨志田啓介議員  【議員：3名】越久田記子 議員、高橋正治 議員、斎藤達也 議員  【緑区：23名】佐藤康博 区長、河村義秀 副区長  宮嶋真理子 福祉保健センター長  安達恒介 福祉保健センター担当部長  得能千秋 緑土木事務所長  高倉徹 担当部長（緑図書館長）ほか関係職員</p>
議題	1 令和7年度 個性ある区づくり推進費 予算案
発言の要旨	<p>1 令和7年度 個性ある区づくり推進費 予算案  (区長、副区長説明)</p> <p><b>【1 災害に強いまちづくり事業】</b>  斎藤議員：外国人に向けた減災啓発事業について、インド人の祭りの中で、AEDの体験訓練を行ったが、このような取り組みを進めてほしい。</p> <p><b>【3 交通安全対策事業】</b>  越久田議員：交通安全運動推進の自転車の交通ルール遵守に向けた啓発について、保育園の送り迎えの自転車が交通ルールを理解していないという声を聞くが、子育て世代向けに啓発する予定はあるのか。  瀬谷地域振興課長：交通安全対策協議会の中で行う事業であり、特に子育て世代に向けて啓発ということは考えていませんが、その中身については、協議をしていく余地があると思います。</p>

越久田議員：子育て世代向けの事業の中で、啓発を行ってほしい。

### 【5 暮らしの衛生推進事業】

越久田議員：人と動物との共生事業について、毎年ペット防災について生活衛生課で対応してくれており、感謝している。令和6年度に工夫し良い実績をあげた取組はあるか。

田中生活衛生課長：令和6年度の特徴・工夫した点ということでは、地域防災拠点の委員や参与を対象としたHUG（避難所運営ゲーム）形式での研修を総務課と生活衛生課との共催で9月に実施し、委員が14拠点19人、参与が21拠点28人、全体で63人が参加しました。アンケートの結果では、「非常によかったです」、「よかったです」との回答が95%を占め、「今後の訓練に役立つか」との問には。「とても役立つ」、「役立つ」との回答が100%を占めました。この研修によって、拠点でのペット同行避難受入準備の必要性について具体的な理解が進んだのではないかと感じています。

越久田議員：今回、医療局の予算案でもペット防災についてかなり計上されているが、現場で地域防災拠点、自治会等の地域の方と協議するのは区役所の職員になるだろう。大変だが一歩ずつ粘り強く進めてほしい。私も啓発を頑張ります。

齊藤議員：このような訓練の成果を、可能なら記者発表などして、ペット防災の取組が広がっている事実を伝え、（未取組のところの）理解を促していくことが大事である。

### 【10 青少年地域サポート事業】

齊藤議員：緑区子ども会連絡協議会について、参加者が少なく各こども会の活動が厳しくなっている。緑区全体で参加してもらえるような広報をしてほしい。

吉田区政推進課長：こども会の活動を広く知っていただくために、広報よこはまを活用したPR等を検討していきたいと考えています。

齊藤議員：SNSも活用して広報をしてほしい。

佐藤区長：こども会の活動については、活動している方の意見をよく聞きながら支援していきたいと考えています。

#### **【14 障害者自主製品販売支援・障害理解等促進事業】**

越久田議員：事業所の方から、土日にも緑区民の方に商品を手にとって買っていただく機会や区民の方と触れ合う機会を作ってほしいとの要望がある。

河合高齢・障害支援課長：障害福祉サービス事業所の自主製品や活動を区民の方に広く知っていただく機会を増やすことは非常に重要で、引き続き取り組んでいくべき課題だと考えています。当事者の活動と区民をつなげる機会についても、どのような形がより区民の方が参加しやすいかという点も踏まえ、それぞれの事業所の意見をよく聞きながら考えていきたいと思います。

越久田議員：区役所がハブとなって事業者の意見を聞いていくことが、大切だと思うので、一つひとつ進めてほしい。

斎藤議員：区民の方にハートフルマーケットを行っていることをよく知ってもらえるようにPRしてほしい。発表会や音楽イベントを考えている人もいるので、相談があつたら受けてほしい。

#### **【16 魅力ある公園づくり事業】**

斎藤議員：公園愛護会について、活動費が足りないという声をよく聞くが、活動費の交付の面積要件などをしっかりと伝えていくとともに、愛護会の話も聞いてほしい。

得能土木事務所長：活動エリアの広さを3,000m<sup>2</sup>、15,000m<sup>2</sup>未満、15,000m<sup>2</sup>以上の3区分に分けて、年間2万円、3万円、4万円を謝金としてお支払いしている。謝金は公園面積でなく、愛護会の活動エリアに応じたものです。特定公園の要望がありましたら、確認させていただきたいと思います。また、愛護会マニュアルや取扱要綱をホームページに掲載しておりますが、分りにくい面もあるので広報はしっかりとしていきたいと思います。謝金だけで必要な物資は貰えませんので、過年度より物品支援と技術支援を立ち上げています。必要な鎌や軍手などを支給しています。

#### **【18 みどり地域まちづくり推進事業】**

越久田議員：中山駅の案内サインについて、皆さまから好評なので、感謝します。

斎藤議員：山下地区ボランティアバスについて、どのような支援を行う

のか。

吉田区政推進課長：令和7年度に向けて地域交通サポートを全市的に充実させていくと話が出ています。緑区内では、山下地区のささえいバスをサポートしています。これまで車両費等の初期費用、車検費用、自動車税の費用をサポートしてきましたが、令和7年度は、車両の修繕費とボランティアの方々の謝礼等の活動費も計上し拡充していきます。

斎藤議員：運転手の確保に困っているという課題もあるので、その部分も応援してほしい。

### 【19 みどりでみつける緑区魅力発信事業】

越久田議員：緑区プロモーション推進事業について、みどり環境局が農に接する機会やマルシェなどの情報を一元化するポータルサイトを作る予算案を出していたが、緑区に関する情報も掲載してほしい。

吉田区政推進課長：みどり環境局と連携して、ポータルサイトにもしっかりと取り上げてもらえるようにやっていきたい。

斎藤議員：緑区遺産事業において、デジタルデータを活用して健康に親しんでいただける方を増やしていく取組が広がるとよいのではないかと考えている。

### 【20 みどり脱炭素推進事業】

鴨志田議員：緑区中の廃食油を集めたり、ミニミニミドリやミドリンマルシェでアピールしたりなど、循環型社会やサーキュラーエコノミーの啓発を進めてほしい。カーボンニュートラル、サーキュラーエコノミー、ネイチャー・ポジティブといった自然との共生は、自然豊かな緑区だからこそ出来るといったアピールをしてほしい。

### 【28 市民活動パワーアップ支援事業】

越久田議員：緑区地域課題チャレンジ提案事業について、公益的活動に対する補助金の交付となっているが、どれくらいの団体にいくらぐらい交付する予定なのか。

瀬谷地域振興課長：補助金は初年度が最大10万円となっており、2年目

が最大7万円、3年目が最大5万円の支援となっています。

越久田議員：募集の内容がわかる資料がありましたら、ご提供ください。

### 【新型コロナウイルス感染症について】

斎藤議員：区役所として対応の検証結果はどうなっているのか。課題点を今後への改善に繋げていけると良い。

宮嶋福祉保健センター長：新型コロナウイルス感染症の検証は、局が各区の振り返りの意見をまとめて、検証結果として共有されています。福祉保健センターとしても、大変な4年間でしたので、5類となった後にも、その時の経験値は、高齢者施設や医療施設に対する感染対策指導や区民向けの広報などに活かされています。今後も、これまでの経験を踏まえて、局と連携して、今後に活かしていくべきと考えています。

斎藤議員：こういうことは風化するので、検証を継続してほしい。また、コロナで打撃を受けた各飲食店や事業所に、支援金やコロナ前とコロナ後の変化など丁寧にヒアリングをして検証してほしい。

### 【中山駅周辺の一体的なまちづくりの推進について】

斎藤議員：区役所としての現在の認識は。

佐藤区長：地権者、事業者等の関係者がおりますし、組合施行が前提かと思っておりますが、中山全体のまちづくりに影響があることですので、なるべく早く動き出せるように支援していきたい。まずは、都市整備局を側面支援しつつ、地域とのつなぎの部分など区役所としても出来る限りの協力をていきたい。

斎藤議員：区役所も区民からの意見を組合にしっかりと伝えてほしい。

### 【喫煙禁止地区について】

斎藤議員：緑区としても適切な場所が喫煙禁止地区となるよう積極的に手を挙げていってほしい。

### 【リビングラボについて】

高橋議員：リビングラボについて、区役所として把握している動きはあるのか。

佐藤区長：直接的なリビングラボをイメージできるものを把握していないというのが事実です。

斎藤議員：緑区で活動しているリビングラボは、竹山団地と神奈川大学と組んだ取組、みどりWell-beinGood！リビングラボ、鴨居地区のオリーブ畠で活動しているみどりオリーブリビングラボの3つがある。

### 【子どもの自死について】

鴨志田議員：子どもの自死を防ぐには、危険信号を発している子供たちをすぐに察知することが大切である。その中で、地域の目が大切だと考えており、区で察知して市に連携してほしい。

佐藤区長：子どもの自死については心を痛めています。先日、東本郷の朝の子ども食堂を視察したが、行政よりも、意識の高い地域の方のほうが実態を把握していると感銘を受けました。同じレベルで行政が施策を行うことはなかなか難しいと思いますが、これから何が出来るか、緑区のお子さんをしっかりと守り切っているかを真剣に考えなくてはならない時期にきています。先生方からもご意見をいただきながら、区として取り組めることを行っていきたい。

鴨志田議員：学校の外で起こっていることを、察知していくことが大事があるので、一緒にやっていきたい。

備 考